

The Mainichi Shimbun

1-1, Hitotsubashi 1 chome
Chiyoda-ku, Tokyo 100
Japan

May 5, 1984

Mr. Ron Ikejiri
Washington Representative
Japanese American Citizens League
1737 Rhode Island Ave , N.W.
Washington, D.C. 20036

Dear Ron:

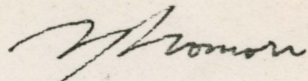
Thank you for giving me the opportunity to interview you last fall.

I am enclosing the clipping in which I have written about you. This article appeared on the front page of the April 11 evening edition of The Mainichi Newspapers.

The series "Harukana Nippon" (Distant Nippon) has finally come to an end with #147 on May 4th. The entire series will be compiled into a book which will be published around August of this year.

Thank you again for all your help.

Yours truly,



Yoshihisa Komori

週刊ニッポ

編集委員 古森 義久

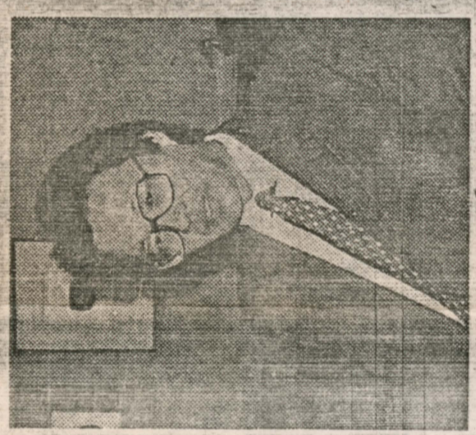
(129)

のほかにKが出た。
次の作業は調査設置を
決める法案の議会提出だ
た。まず共同提案者となる
議員をできるだけ多くつ
かまねばならない。タイ
シの対議会工作が始ま
た。JACLの全米各地の
メンバーたちも地元選出の
議員に働きかけ、隣に
支援した。ワシントンでの
彼のロビー活動に全面協力
したのは、三世の丹澤士
ン・イケシだった。

ジョン・タイシは七九
年一月インワエ マツ
カ向上院議員、ミネタマ
ツイ向上院議員を筆に招
いて長い時間、懇談した。
JACL補償要求委員会の
全米委員長だったタイシ
は、日米人強制収容への補
償を求める法案を議会と
う通過させるかを日系議員
たちに尋ねたのである。
もうひとりの日系政治家

タイシとイケシは議
会のあるキャピトル・ヒル
を連日、歩き回った。上
院院の議員たちを次々に訪
ね、訴えた。大石やコ
クリトの目は純のすり減
るのが早かった。議員十
人以上の共同提案で出た法
案は10年夏、可決され、
カーター大統領により署名
された。調査委員会が正式
に発足した。収容体験者
当時の実情を聞く公聴会が

ロビイング



イケシは最近の日系移民が日系人
に与えている影響について語った

のハヤカ向上院議員は招か
れなかった。奇抜な言動で
名高いハヤカは強制収容
の問題でも一般日系人は
まるっきり違う見解をど
り「強制収容は日系人に
とってぞっとしたことだ
と」まで述べていた。彼
を合わせれば日系の連邦議
員は五人、日系人の全人口
が二億のうちのおよそ七十
万だからその政治出席は
ものすごい。
日系議員たちはタイシ
に補償法案成立を率にめ
ざすのは時期尚早だと説
いた。他の政治プロたちから
の助言とも同じだった。こ
の段階ではまず収容が不当
であり補償が当然であるこ
とを証するため調査委員
会を議会につくさるべき
だ、というのが大多数の意
見だった。タイシらはこ
の案をJACLの二連の会
議に力ける。激論また激論

各地で始まった。
JACLのワシントン事
務所で会ったイケシは
背が高く声の大きい、一
見、攻撃的にも見える人物
だった。三十五歳の彼はJ
ACLのワシントン代表
で、日常の仕事は政府や議
会との接触である。ロビー
ングと呼んでもよい。
補償要求運動の現状を語
るイケシは、私が日系社
会の内部にもある反対や懐
疑に触れると、待っていた
はばかりに、力を込めて話
し始めた。
補償要求は反日感情を再
燃させる。尾巻はカネに換
算できない。いまの経済財
政では巨額の支払いを望め
ない。戦争だから収容もや
むをえなかった……こんな
見解の教々をイケシは丹
澤らしい明確な論旨で次
々と論破していった。

II 激論(つづく)